

Title	経営戦略のダイナミズムと企業評価 - 持続的成長を達成する電子デバイスメーカーの分析から -
Sub Title	
Author	幾代, 孝四郎(Ikuyo, Koushirou) 青井, 倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2004
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2004年度経営学 第1927号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1927

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	青井 研究会	学籍番号	80328084	氏名	幾代 孝四郎
(論文題名)					
経営戦略のダイナミズムと企業評価 ー 持続的成長を達成する電子デバイスメーカーの分析からー					
(内容の要旨)					
<p>本論文は、「運用会社のファンドマネージャーやアナリストが企業評価を行う際、より客観性と説得力のある定性評価を行う必要性が高い」という問題意識のもと、より普遍的な「経営戦略のフレームワーク」を、株式投資における企業の「定性評価」に応用することを目的とした。</p> <p>本論文においては、「外部環境への適応と、企業内部への資源蓄積の両方に優れた企業が、持続的に高いパフォーマンスを達成する」という前提を置き、「競争戦略論」と「資源戦略論」による「static (静態的)」な評価を利用しながら、外部環境への「適応」や経営資源の「蓄積」といった「dynamic (動態的)」な部分も考慮することで、二つの事業戦略を土台にした「ダイナミックな企業戦略のフレームワーク」を構築した。</p> <p>そして、長期に亘り高いパフォーマンス (時価総額の拡大) を持続させた電子デバイスメーカーと、パフォーマンスが悪化した電子デバイスメーカーの戦略を分析することで、このフレームワークの有効性を検証した。同時に、電子デバイス業界において高いパフォーマンスを達成するためには、資源戦略との相乗効果を生み出す競争戦略 (コア・コンピタンスの強化に繋がるポジショニング)、生産設備の内製化により模倣困難性を高める資源戦略、技術の代替に備える資源戦略 (資源戦略のダイナミズム) が、有効性の高い戦略パターンであることが確認できた。</p> <p>最後に、銘柄選択などの実務に応用するために、「競争戦略」と「資源戦略」の有効性を、「株主資本の成長率」や、「株価バリュエーションの変化率」で評価するフレームワークを提言した。これによって、より客観性と説得力のある評価方法を構築することが可能になったと考える。</p>					